

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。
 本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	ホルモン補充周期の凍結融解胚移植における経膈プロゲステロン製剤での血中プロゲステロン値と妊娠成績の検討		
2. 対象患者	以下の期間において当院でホルモン補充周期下に胚盤胞の凍結融解胚移植を受けられた42歳以下の方		
3. 対象となる期間	2015年 3月 1日 ~ 2017年 9月 30日		
4. 実施診療科等	産科婦人科		
5. 研究責任者	氏名	福原 理恵	所属 産科婦人科
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任者)	特にございません		
7. 研究の意義	<p>ホルモン補充周期凍結融解胚移植において、プロゲステロンの補充は妊娠維持に重要な役割を担っています。プロゲステロン製剤は近年、経膈投与の天然型プロゲステロン製剤が数種類発売されています。当院でも数種類の経膈プロゲステロン製剤を使い分けており、使用量の過不足の評価は血中プロゲステロン値を参考にしています。しかし、経膈プロゲステロン製剤は子宮に直接的に作用しているとされており、血中プロゲステロン値による適切な使用量の評価は困難です。実際の臨床では、原因不明で流産に至ってしまった場合、プロゲステロンが不足していたと判断されますが血液以外に安全にプロゲステロン濃度を測定する方法は現時点で存在しません。</p> <p>本研究により、血中プロゲステロン濃度の上がりやすさと臨床成績の関係について明らかになると思われます。</p> <p>なお、43歳以上は体外受精胚移植の一般成績から、43歳以上は除外しています。</p>		
8. 研究の目的	各種製剤における血中プロゲステロン値と臨床成績について検討し、血中濃度の上がりやすさやカットオフ値があるかどうかについて明らかにします。		
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合の方法等)	当院でホルモン補充周期下に凍結融解胚移植を施行した患者さんのカルテデータ(年齢、既往歴、妊娠分娩歴、採血結果、凍結融解胚移植の経過、妊娠の有無)を使用します。凍結融解胚移植の経過、血中プロゲステロン値、妊娠の有無について解析します。		
10. 個人情報の保護	<p>データは匿名化(氏名等を削除し、この研究のための識別符号を付与)され、関係者以外アクセスできないパソコン中に保管・管理されます。また、対応表に関しましても同様に別のパソコン中に保管・管理されます。</p> <p>研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。</p> <p>対象者の方より拒否の申し出があった場合は研究対象から除外しデータを削除致します。</p> <p>ただし、研究結果公表後は公表済みのデータを修正することは出来ませんのでご了承願います。</p>		
11. 利益相反に関する状況	特にございません		
12. 連絡先	産科婦人科 講師 福原 理恵		
	電話	0172-39-5107	FAX 0172-37-6842